

## 愛知県情報公開審査会答申の概要

答申第 1014 号（諮問第 1673 号）

件名：行政文書ファイル管理簿の行政文書ファイル名が分限処分（所属用）（削除）のものの不開示（不存在）決定に関する件

1 開示請求

令和 3 年 10 月 5 日

2 原処分

令和 3 年 10 月 20 日（不開示決定）

愛知県警察本部長（以下「処分庁」という。）は、別記の開示請求に係る行政文書（以下「本件請求対象文書」という。）について、不存在を理由として不開示とした。

3 審査請求

令和 3 年 12 月 6 日

原処分の取消しを求める。

4 諮問

令和 4 年 1 月 20 日

5 答申

令和 4 年 9 月 27 日

6 審査会の結論

処分庁が、本件請求対象文書について、不存在を理由として不開示としたことは妥当である。

7 審査会の判断

(1) 判断に当たっての基本的考え方

愛知県情報公開条例（平成 12 年愛知県条例第 19 号。以下「条例」という。）第 5 条に規定されているとおり、何人も行政文書の開示を請求する権利が保障されているが、開示請求権が認められるためには、実施機関が行政文書を管理し、当該文書が存在することが前提となる。

当審査会は、行政文書の開示を請求する権利が不当に侵害されることのないよう、処分庁及び審査請求人のそれぞれの主張から、本件請求対象文書の存否について、以下判断するものである。

(2) 本件請求対象文書について

行政文書開示請求書の内容を基本として、審査請求書や処分庁が作成した弁明書の内容も踏まえると、本件請求対象文書は、稲沢署において、「令和 2 年分限処分（所属用）削除」という名称の行政文書ファイル（以下「本件行政文書ファイル」という。）に保管されている行政文書と解される。

(3) 本件請求対象文書の存否について

ア 処分庁によれば、本件行政文書ファイルは、稲沢署において分限処分に係る職員が令和 2 年中に人事異動等によって稲沢署に在職しなくなったときに作成するものであるところ、保管する行政文書が存在せず、作成する必要性がなかったにもかかわらず、稲沢署で誤って作成され、行政文書ファイル管理簿に掲載していたとのことである。

当審査会において処分庁に確認したところ、本件行政文書ファイルは本来であれば、当該分限処分を受けた職員が令和 2 年中に人事異動や退職等によって稲沢署に在職しなくなったときに作成すべきところ、復職した段階で誤って作成してしまったとのことである。

イ これらのことからすれば、本件請求対象文書を作成又は取得しておらず、開示請求に係る行政文書を管理していないとする処分庁の説明に特段不自然、不合理な点があるとは認められない。

(4) 審査請求人のその他の主張について

審査請求人は、その他種々主張しているが、本件請求対象文書の存否については、前記(3)において述べたとおりであることから、審査請求人のその他の主張は、当審査会の判断に影響を及ぼすものではない。

(5) まとめ

以上により、「6 審査会の結論」のとおり判断する。

(6) 付言

情報公開制度の適正かつ円滑な運用のためには、行政文書を適正に管理することが不可欠である。今後は、行政文書が保管されていない行政文書ファイルが行政文書ファイル管理簿に掲載されることのないよう適正に管理されたい。

別記

令和 2 年 6 月版行政文書ファイル管理簿の行政文書ファイル名が令和 2 年分限処分（所属用）（削除）のもの（請求日現在、愛知県稲沢警察署で管理するもの）